

# What's up,



# OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分！)

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 51》2017年5月発行

## なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～ 【豊後高田市／杵築市】



(豊後高田市)  
昭和の町



(豊後高田市)  
富貴寺



(杵築市)  
勘定場の坂



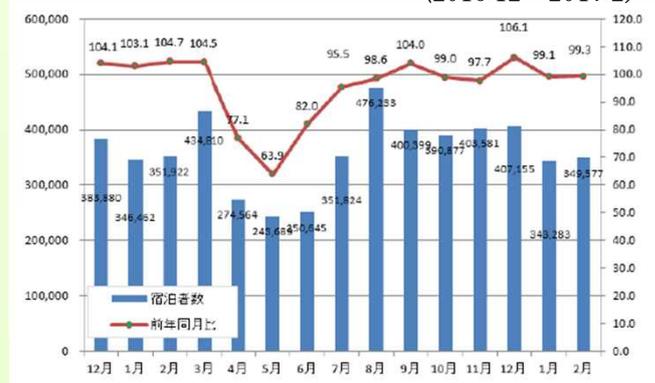
(杵築市)  
杵築城

## 熊本地震から1年、県内の宿泊者数はV字回復を達成

2016年4月に発生した熊本地震から、1年が経ちました。県内でも家屋や道路に大きな被害があり、中でも観光客数の減少は顕著でした。しかし、宿泊割引クーポン「九州ふっこう割」の効果もあり、県内の観光客数はV字回復を達成することができました。「九州ふっこう割」終了後は再度観光客が減少してしまうというのではという懸念がありましたが、ほぼ前年並みで推移しています。これは、「大分県を応援したい」と訪れてくださった世界中の人々の気持ちや、県内観光関係者の努力の結果と言えます。5月の大型連休(GW)中もたくさんの観光客の方々に来ていただき、地震前と比べても、宿泊客数は全ての地域で増加または横ばいとなっています。

宿泊者数の動向(大分県観光統計調査結果より)

(2016.12～2017.2)



大分県を応援し、訪れてくださった皆様に、  
この場を借りて御礼申し上げます！



## 災害時の外国人への支援を充実

熊本地震の際に課題となったのが、外国人への対応です。日本語を理解することが難しい県内在住の外国人や、観光で大分を訪れていた際に被災した外国人の方々への



情報提供や支援が不足していたという課題が浮き彫りになったことから、大分県は災害対策本部内に「災害時多言語情報センター」と「外国人救援班」を設置することとしました。

4月25日に、国や市町村、その他関係機関と連携し、総合防災対策訓練が行われました。最大震度6強の地震が発生したという想定で、「災害時多言語情報センター」と「外国人救援班」を担当する職員もその役割を果たすべく訓練に参加しました。

## 【注目記事】 地域コアリーダープログラム 3カ国から青年を招へい

本県では、内閣府青年国際交流事業の地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」を平成27年度に引き続き実施しました。



このプログラムは、「高齢者関連活動」、「障害者関連活動」及び「青少年関連活動」の3分野において、地域の課題解決に向けた取組に携わる青年を派遣する「派遣プログラム」と外国において同様の課題解決に取り組む青年を招へいする「招へいプログラム」で構成されています。

今年度は、フィンランド共和国、ドイツ連邦共和国及びグレートブリテン及び北アイルランド連合王国の3カ国を対象として実施しました。

「派遣プログラム」では、平成28年10月9日から18日の日程で本県から推薦した社会人2名を派遣し、「招へいプログラム」では、平成29年2月21日(火)から26日(日)の日程で3カ国から13名の青年を招へいし「障害者関連活動」を実施しました。

障害者関連活動では、「障がい児の自己決定の向上と家族に対する啓発・支援、そして地域における理解の促進」をテーマとして、親の会との意見交換や社会福祉施設の見学及びホームステイ等を行いました。また、24日(金)には、ホルトホール大分において地方セミナーを開催し、各国及び大分県の青年からそれぞれ実践報告を行うとともに、分科会を開催し各国の現状等について意見交換を行いました。

プログラムの参加者からは、「お年寄りや若者や障害者の声をもっと聞くべきである。」、「各NPO間や関係者との協働を推進すべきである。」、「今後も情報交換と成功事例を紹介し合うことが重要である。」等の声が寄せられ、大変充実した内容でした。



(私学振興・青少年課)

## 海外大分県人会交流掲示板



### ロサンゼルス県人会 會田会長が来庁

3月30日に、ロサンゼルス大分県人会の會田裕二会長が来庁されました。

ロサンゼルス大分県人会(会員数40名)は今年で創立100周年を迎え、9月には現地で記念式典が予定されています。今回、會田会長は式典の準備のために帰国し、県庁でも打合せを行いました。

様々なプログラムが予定されていますが、盛大な式典となるよう、県もお手伝いをさせていただきます。





Pick Up! 大分の「今」

# 県内の出来事（4月）



## 【4月5日(水)】 屋内スポーツ施設起工式

2019年春に完成予定の県立屋内スポーツ施設の起工式が開催されました。施設は大分スポーツ公園内の大分銀行ドームに隣接する敷地に建設されます。多目的競技場や武道場が主要施設となっており、2019年秋に開催されるラグビーワールドカップでも「ホスピタリティ施設」として、飲食スペースやボランティアセンターとして使用される予定です。



## 【4月17日(月)】 大分県への移住者数 過去最多

昨年度、県内自治体の施策を活用した移住者数が過去最多の768人となりました。「移住サポーター」制度や、2016年度に首都圏で開催した大規模な移住フェアが奏功したと見られています。2017年度は、若い世代が多く転出している福岡県での取組を強化し、Uターンを促進します。



## 【4月28日(金)】 「やばけい遊覧」 日本遺産に

中津市と玖珠町が共同で申請した「やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく」が日本遺産に選ばれました。日本遺産とは、地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、2015年度の開始以来、県内の認定は日田市の咸宜園跡に続いて2件目です。

### ●ストーリー概要●

耶馬溪とは、川が溶岩台地を浸食した奇岩の溪谷で、石柱の断崖、岩窟、滝、巨石が大パノラマをつくっています。その深く神秘的な地形は伝説と祈りの場所となり、山水画のような風景は文人画人憧れの地でもありました。1000年以上の昔から、人々は岩から仏、石橋、洞門、庭園と、優れた作品を生み出し、広大な大地に配しては回遊路でつないでいき、大正時代ついに一本の絵巻物のようにまとめあげました。次々と場面が展開する「耶馬溪」という山水絵巻に入り込み、空から、谷底から、遊覧の旅をお楽しみください。

中津市HPより <http://www.city-nakatsu.jp/infodoc/2017042500083/>





## 中国から新しい国際交流員が来県しました！

初めまして、国際政策課に新しく配属されました国際交流員の張鵬と申します。2008年にはじめて来日し、その後、留学、学会、旅行などを機にほぼ毎年両国の間を行き来しています。母国の中国で大学の教師を勤めながら、姉妹校の大分大学との国際交流事業を兼務していました。それ故に、大分県に来るのは初めてですが、以前から親しみを持っていました。今年は県の国際交流員として任用され、とても嬉しく光栄に思います。これからの一年、日本の地域文化への理解を深めつつ、教育だけでなく、もっと幅広い範囲で大分県と湖北省、そして中日両国の友好交流に力を尽くして推進したいと思います。



張 鵬 (Zhang Peng)

## From our Reporters

県の国際交流員等が、旬なOITA情報をお届けします。



シェリダン・ミキシック  
(Sheridan McKisick)  
県国際交流員  
米国  
[pu1014001@pref.oita.jp](mailto:pu1014001@pref.oita.jp)

実は、今年まで日本で桜を見たことがありませんでした。日本からアメリカに行くのは春が一番安いシーズンだから、去年も留学していた時にも3月から4月にかけて家族に会いにアメリカに帰っていました。けれども今年日本に残って大分で初めての花見をすることにしました。

桜が咲いたらとたん古文の「わびさび」の気持ちがよく分かりました。花がとても美しいのに、必然的に落ちてしまいます。この写真は、大分川の周りの桜です。「わびさび」の気持ちよりメルヘンの世界をさまよっているような気持ちでした。



金 眞雅  
(Kim Jina)  
県国際交流員  
韓国  
[pu101502@pref.oita.lg.jp](mailto:pu101502@pref.oita.lg.jp)

桜のシーズンを迎え、お花見スポット巡りをしてきました。最初に行ったのは城址公園。既に人だかりで賑わっていましたが、幸い桜の木の下にシートを敷くことができました。周りはみんなバーベキューをしていたので、私たちも早速買ってきたお弁当と団子を食べながらお花見を楽しめました。写真もたくさん撮って、次に大分川へ行きました。大分川沿いには桜の木が植えられていて、歩きながら桜を眺めるのも風情があって気持ち良かったです。橋を渡り、最後に向かったお花見スポットは平和市民公園です。途中でピザをテイクアウトし、公園ピザを食べながらお花見をしました。一日で3つのお花見スポットを巡って疲れましたが、去年はお花見できなかったのも楽しかったです。

もう散り始めた桜を惜しみながら、3日連続城址公園でランチを食べていますが、次回はバーベキューもできたら良いなと思います。



### ～編集後記～

4月から「国民文化祭・障害者芸術文化祭局」や「ラグビーワールドカップ2019推進室」が新設され、県としても来年、再来年に向けて、大きなイベントへの準備が本格化してきました。昨年の観光統計をみると、熊本地震による落ち込みを海外からの観光客(インバウンド)の増加がカバーしており、これからは、さらにおもてなしに磨きをかけて、海外の方を中心に多くの方に大分の魅力を発信できるよう頑張っています。

(国際政策課長 徳野 満)

### 話題提供のお願い！

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！  
(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:小野  
【Mail】 [a10140@pref.oita.lg.jp](mailto:a10140@pref.oita.lg.jp)

バックナンバーはこちら

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/10140/whatsupoita.html>